

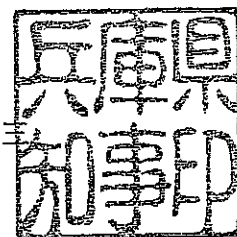
【様式1】

疾 第 1674 号

平成19年10月31日

厚生労働大臣 殿

兵庫県知事 井戸 敏三



がん診療連携拠点病院の新規指定に係る推薦について

標記について、がん診療連携拠点病院の整備に関する指針（平成18年2月1日健発第0201004号）に基づき、推薦意見書及び2次医療圏の概要並びに推薦書を添付の上、下記の医療機関を推薦します。

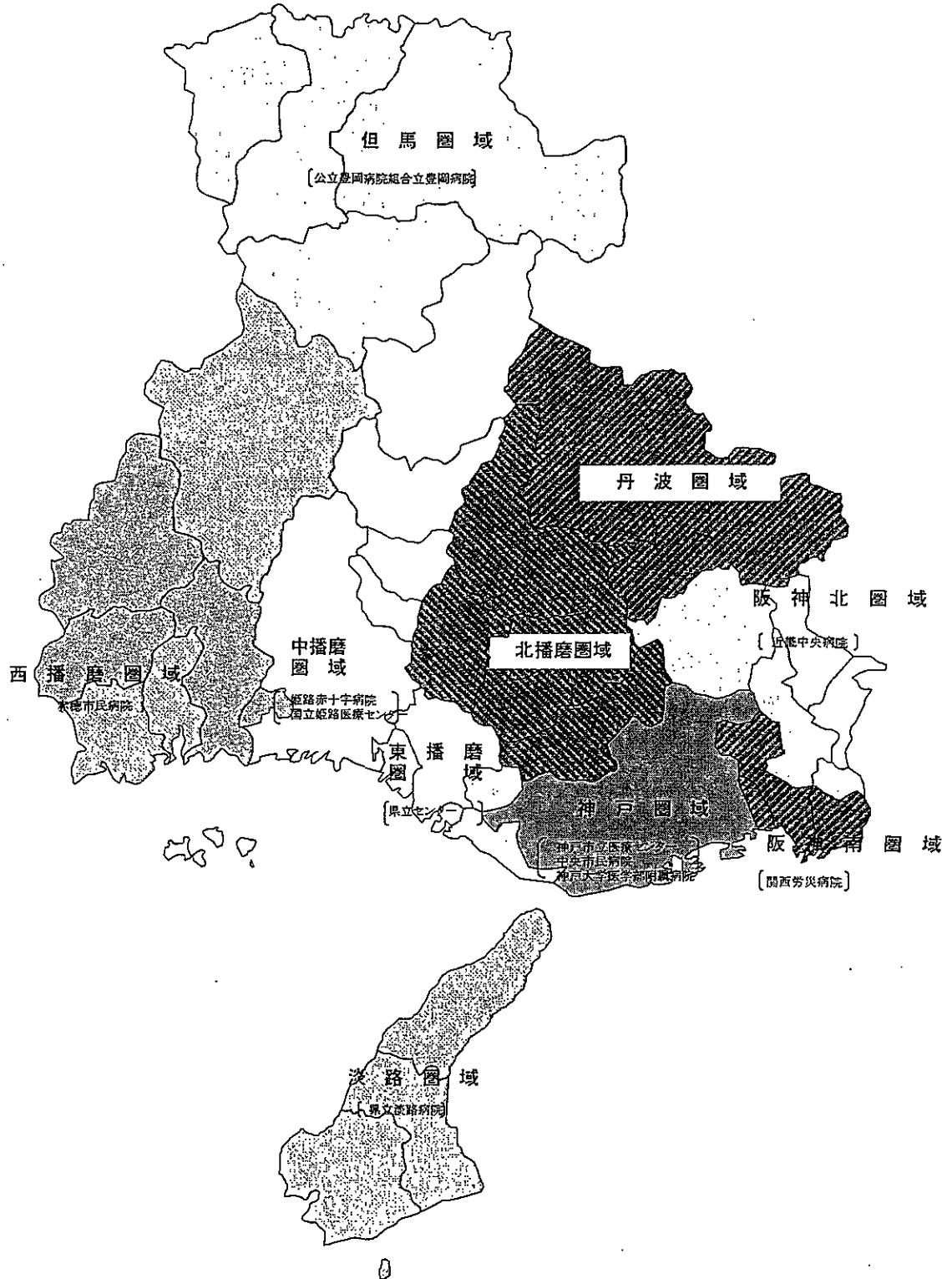
記

兵庫医科大学病院（新規指定）

西脇市立西脇病院（新規指定）

兵庫県立柏原病院（新規指定）

1. 圏域図



2. 概要

(平成19年9月1日現在)

医療圏名	面積(km ²)	人口	人口割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院		
						既指定病院数	今回推薦病院数	計
神戸	552.55	1,530,295	27.3	2,769.5	107	2	0	2
阪神南	167.64	1,029,886	18.3	6,143.4	52	1	1	2
阪神北	480.98	717,696	12.8	1,492.2	33	1	0	1
東播磨	266.20	718,403	12.8	2,698.7	41	1	0	1
北播磨	895.56	288,479	5.2	322.1	21	0	1	1
中播磨	865.06	583,417	10.3	674.4	40	2	0	2
西播磨	1567.24	277,548	5.1	177.1	24	1	0	1
但馬	2133.50	187,340	3.4	87.8	13	1	0	1
丹波	870.89	113,826	2.1	130.7	8	0	1	1
淡路	595.85	147,923	2.7	248.3	12	1	0	1
計	8395.47	5,594,813	100.0	666.4	351	10	3	13

注1)「人口割合」欄は、県全体の人口に対する圏域ごとの割合を記入すること。

注2)「人口密度」欄は、各医療圏域ごとに、人口/面積(km²)(少数点以下第2位四捨五入)により算出した数値を記入すること

注3)「病院数」欄は、拠点病院以外の病院も含めた数を記入すること。

注4)「今回推薦病院」欄は地域がん診療連携拠点病院を都道府県がん診療連携拠点病院へ指定変更する場合には、()書きで、指定更新の場合に()書きで、内数を示すこと。

がん診療連携拠点病院に係る推薦意見書（兵庫県）

1 はじめに

(1) 本県のがん対策の取り組み状況

- ・ がんの死亡者数の増加に対し、本県では、昭和 62 年に「ひょうご対がん戦略会議」を設置して、その提言をもとに「推進体制」「予防・教育啓発」「検診」「医療」「情報」及び「研究」の 6 つの柱からなる「ひょうご対がん戦略」を総合的に推進し、粒子線治療施設の早期設置に関する提言や、肝がん集団検診の開始などの成果がありました。
- ・ 平成 9 年度からは、「ひょうご対がん戦略」の成果と課題を踏まえ、がん対策の重点を「働き盛りのがん対策の推進とがん患者の QOL（生活の質）の向上」に置いた「新ひょうご対がん戦略」を推進し、全がん死亡率全国値との差の縮小（平成 9 年 12.4→平成 17 年 9.6）や、粒子線医療センターの供用開始、前立腺がん検診の開始などの成果がありました。
- ・ 平成 19 年度には、それまでの対がん戦略の成果と課題を踏まえた「第 3 次ひょうご対がん戦略」を、「がん対策基本法」に基づく「兵庫県がん対策推進計画」と位置づけて策定しています。

(2) がんの年齢調整死亡率

- ・ 本県のがんの年齢調整死亡率を全国値と比較すると、平成 17 年において、男性では大腸がん、前立腺がんが、女性では、乳がん、血液がん、大腸がんが全国値を下回っている一方、男性では、肝がん、肺がん、胃がん及び血液がんが、女性では、肝がん、肺がん胃がん及び子宮がんが全国値を上回っています。
- ・ 特に、肝がん、肺がんの年齢調整死亡率が高いことが、本県の全がん年齢調整死亡率が全国値よりも高い要因となっています。
- ・ しかしながら、全国値を上回っているすべてのがんについて、男女を問わず、全国値との差は縮小しています。

表 がんによる年齢調整死亡率（人口 1.0 万対）
（男性）

		平成 7 年			平成 17 年		
		全 国	兵庫県	差	全 国	兵庫県	差
H17 全 国値 以下	大腸がん	24.4	26.5	2.1	22.4	22.1	△0.3
	前立腺 が ん	7.7	7.2	△0.5	8.5	8.2	△0.3
H17 全国値 以上	肝がん	31.6	43.9	12.3	23.7	30.3	6.6
	肺がん	47.5	52.4	4.9	44.6	48.2	3.6
	胃がん	45.4	49.6	4.2	32.7	33.2	0.5
	血液がん	13.0	13.8	0.8	11.7	12.0	0.3
	全がん	226.1	248.5	22.4	197.7	210.6	12.9

(女性)

		平成7年			平成17年		
		全 国	兵庫県	差	全 国	兵庫県	差
H17 全国 値 以下	乳がん	9.9	9.6	△0.3	11.4	10.6	△0.8
	血液がん	7.2	6.4	△0.8	6.7	6.3	△0.4
	大腸がん	14.1	13.6	△0.5	13.2	13.0	△0.2
H17 全国 値 以上	肝がん	9.1	12.4	3.3	7.7	10.2	2.5
	肺がん	12.5	14.4	1.9	11.7	12.8	1.1
	胃がん	18.5	19.6	1.1	12.5	12.9	0.4
	子宮がん	5.4	6.5	1.1	5.1	5.4	0.3
	全がん	108.3	113.6	5.3	97.3	100.5	3.2

資料 厚生労働省統計情報部「人口動態統計」

2 今後の対応

上記の戦略・対策を総合的に推進してきましたが、がんの死亡率は依然、全国よりも高い状態が続いています。このため、本県では、都道府県がん診療連携拠点病院の整備を通じて地域型拠点病院等に対する

- ① 粒子線治療等の高度診療機能の充実強化
- ② 専門医研修等の実施
- ③ 全県相談支援センター機能の提供
- ④ 兵庫県がん診療連携協議会における地域連携クリティカルパスの検討及び整備

地域がん診療連携拠点病院の整備を通じてかかりつけ医等に対する

- ① 出張型地域緩和ケアチームによる指導
- ② 化学療法や緩和ケア等に関する研修の実施
- ③ 相談支援機能の強化

により、がん医療水準の均てん化を通じてがん死亡率の低減を図るとともに、がん患者の療養生活の質の維持向上を図ってまいります。

3 地域型がん診療連携拠点病院の整備について

本県は、「がん診療連携拠点病院の指定に関する検討会」や「ひょうご対がん戦略会議」（有識者、関係団体、がん患者団体等で構成）の議論、空白圏域を解消すべきといった県議会やがん患者会からの意見を踏まえ、次の方針に基づき、推薦病院を選定しました。

- ① すべての2次医療圏域において、がん診療連携拠点病院を整備すること。
- ② 「必須」指定要件を具備していること。

③ 2次医療圏域において複数の医療機関を推薦する場合は、拠点病院間で機能的な役割を分担できること。

なお、現在策定している「兵庫県がん対策推進計画」においては、「個別目標」として、「すべての2次医療圏域において、1年以内に、がん診療連携拠点病院を整備する」と明記する予定です。

今回、推薦する地域型拠点病院及び指定要件具備状況は次のとおりです。

圏域名	医療機関名	緩和ケア	相談支援体制	院内がん登録	腫瘍センター	年間新入院がん患者数 (平成18年)
阪神南	兵庫医科大学病院	○	○	○	○	3,859人
北播磨	西脇市立西脇病院	○	○	○	—	574人
丹波	兵庫県立柏原病院	○	○	○	—	493人

(1) 阪神南圏域

阪神南圏域では、「兵庫医科大学病院」を推薦します。

本圏域の人口は100万人を超え、神戸圏域に次いで人口の多い圏域です。圏域中央部に武庫川が流れており、武庫川を境に東西に別れています。この圏域は一昨年、アスベストによる健康被害が明らかになった尼崎市の属する圏域であることから、中皮腫に関する医療相談等の充実を求められる地域でもあります。

今回推薦する兵庫医科大学病院は必須指定要件を具備しており、また、新入院がん患者数も年間3千人を超える病院です。

がん患者の通院圏域から分析すると、本年1月に指定を受けた関西労災病院との機能的な役割分担は下表のとおりとなります。両病院とも他圏域、他府県からの受療実績もあるなど本県で有数のがん医療提供病院です。

項目	関西労災病院	兵庫医科大学病院
地域分担	東部地域	西部地域
	・入院・外来患者の約6割が圏域東部地域から受け入れている。	・入院・外来患者の約6割が圏域西部から受け入れている。

両病院の特徴は下表のとおりです。

項目	関西労災病院	兵庫医科大学病院
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・「アスベスト疾患センター」の設置、中皮腫とアスベストばく露の因果関係の究明、早期診断方法の確立等の研究に取り組むなど、豊富な中皮腫の診療実績による十分な相談支援機能を発揮することができる。 (昨年度の推進意見書より) 	<ul style="list-style-type: none"> ・治療の初期段階からの放射線療法による肛門温存を図るなど、本県の大腸がん分野で重要な役割を担っている。 ・「NPO 法人兵庫さい帯血バンク」の事務局を引き受け、移植実績も本県最多であるなど、造血幹細胞移植分野で本県の血液がん治療の重要な役割を担っている。 ・アスベスト発がんの分子予防の実現や相談体制の充実を目的に「中皮腫・アスベスト疾患センター」を設置するなど、本県のみならず、全国レベルでのアスベスト相談体制の充実に資することが可能となる。 ・がんプロフェッショナル養成プランの実施など、特定機能病院の研修機能を活かした専門医等を育成することができる。

なお、同病院の「中皮腫・アスベスト疾患センター」は、昨年の検討会において議論された「アスベスト医療相談の充実」に関する次の要件を満たしていることを申し添えます。

- ・ 労働者とその家族のみならず、一般住民からのアスベスト医療相談を受け付ける体制をもっていること
- ・ 当該医療機関が所在する都道府県内外のがん診療連携拠点病院に対して、アスベスト医療相談に関する指導、助言を行える体制をもっていること。
- ・ 厚生労働省が実施するアスベストに関する調査研究に協力すること
- ・ 上記要件の達成状況につき毎年報告すること

(2) 北播磨圏域

北播磨圏域では、必須要件を具備している「西脇市立西脇病院」を推薦します。

北播磨圏域は、本県のほぼ中央に位置しており、本県の総面積の約11%を占めています。日本のへソ（東経135度、北緯35度）と称されている地理上の日本の中心地（西脇市）があり、日本の標準時を定める子午線が南北に貫いています。また、県下最大の河川である加古川が地域の中央部を貫流し、流域には播州平野が広がっています。

北播磨圏域において、年間新入院がん患者数が1,200人を超える病院はありませんが、以下の理由からがん診療連携拠点病院の整備が必要な圏域であると考えます。

- 本県のがん診療連携拠点病院は瀬戸内海沿岸に集中しており、中間山村部においても拠点病院を整備すべきであると「ひょうご対がん戦略会議」や県議会、がん患者会から強く求められている。
- 北播磨圏域では約70%の県民が同圏域でがん治療を受けているので、当該圏域の身近な医療機関で質の高いがん医療提供体制を構築する必要がある。
また、他の圏域の拠点病院と北播磨圏域の病院・診療所との連携が希薄であるため、

拠点病院が未整備の状況が継続すると、緩和ケアの普及や地域連携クリティカルパスの整備等にも支障を生じかねない。

- これまで放射線治療を行う病院のなかった同圏域で、今回推薦する市立西脇病院が11月1日より放射線治療を開始することとなり、放射線治療を含む集学的治療の提供が可能となった。
- 市立西脇病院のがん入院患者数は、平成17年384名であったものが、平成18年は574名と増えており、放射線治療の開始及び地域の医療機関との連携強化により、今後も大幅な患者の増加が見込まれる。

(3) 丹波圏域

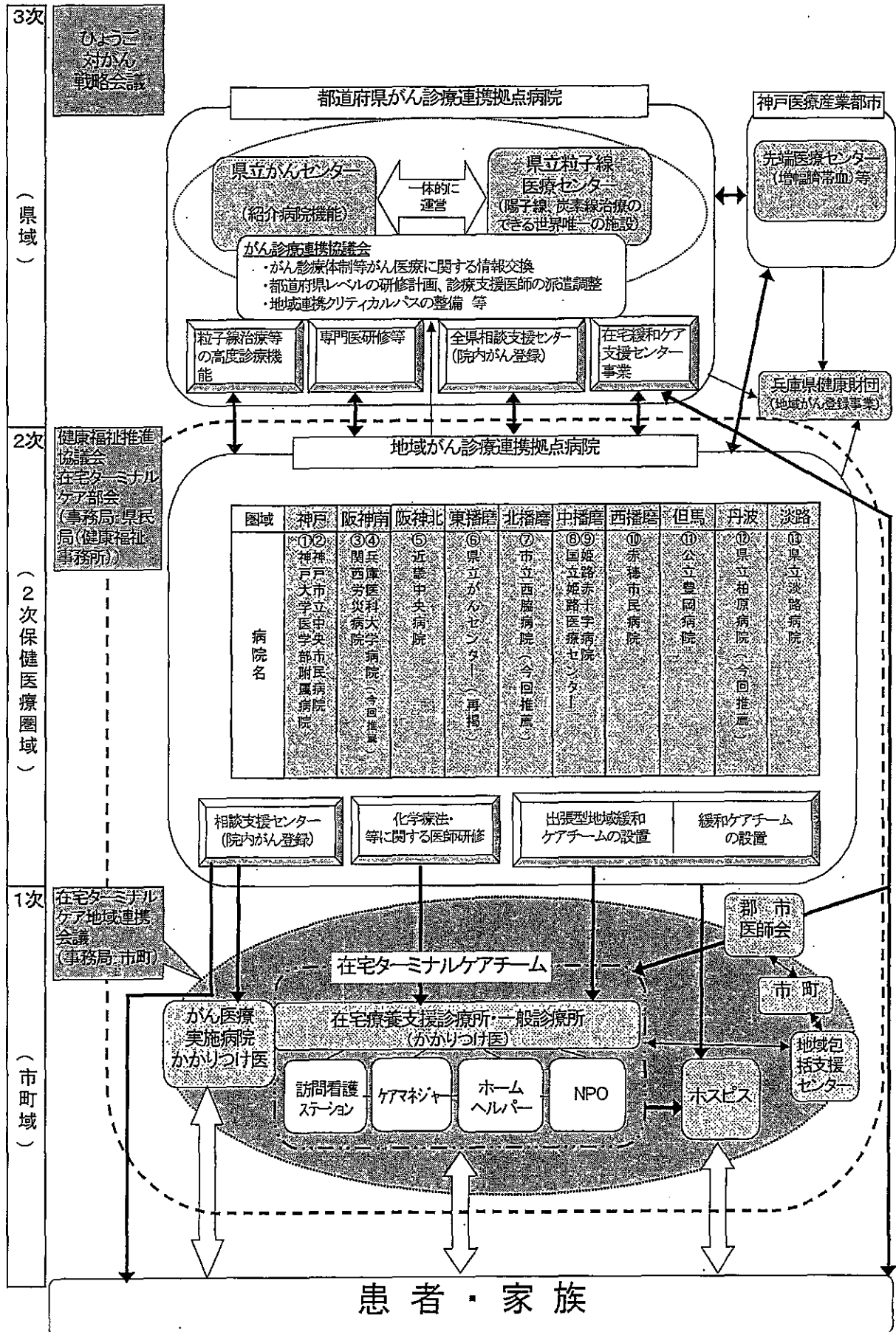
丹波圏域では、必須指定要件を具備している「兵庫県立柏原病院」を推薦します。

丹波圏域は、本県の中東部に位置しており、本県の総面積の約10%を占めています。日本列島のほぼ中央に位置しており、中間的な気候（年平均気温約15度、年平均降水量約1,700mm）を示しています。

丹波圏域において、年間新入院がん患者数が1,200人を超える病院はありませんが、以下の理由からがん診療連携拠点病院の整備が必要な圏域であると考えます。

- 本県のがん診療連携拠点病院は瀬戸内海沿岸に集中しており、中間山村部においても拠点病院を整備すべきであると「ひょうご対がん戦略会議」や県議会、がん患者会から強く求められている。
- 丹波圏域では約70%の県民が同圏域でがん治療を受けているので、当該圏域の身近な医療機関で質の高いがん医療提供体制を構築する必要がある。
また、他の圏域の拠点病院と丹波圏域の病院・診療所との連携が希薄であるため、拠点病院が未整備の状況が継続すると、緩和ケアの普及や地域連携クリティカルパスの整備等にも支障を生じかねない。
- 丹波圏域のがん死亡率は287.8（平成17年）と全県値263.8（平成17年）を大幅に上回っている。「がん対策推進基本計画」の「全体目標」である「今後10年間で75歳未満の年齢調整死亡率の20%減少」や、「兵庫県がん対策推進計画」の「全体目標」に掲げる予定の「平成17年を基準に75歳未満のがん死亡者を平成24年に900人減少」を達成するためには、拠点病院を整備して、死亡率低減効果の高いがん医療水準の均てん化を図る必要がある。
- 県立柏原病院のがん入院患者数は、平成17年418名であったものが、平成18年は493名と増大している。同院は「がん診療推進委員会」を設置して、同院全体でがん診療の充実に努めており、今後も、地域の医療機関との連携強化を通じて、大幅な患者の増加が見込まれる。

がん診療連携イメージ図



推薦意見書の添付資料(兵庫県)

「兵庫県がん対策推進計画」に記載される事項(予定を含む)について

(1) 兵庫県のがん医療提供体制

項目	回答
全体像、がん診療連携拠点病院の整備方針、がん診療連携拠点病院間の役割分担・連携方策等を示すこと	○ 整備方針(推薦意見書2～3ページに記載済) <ul style="list-style-type: none"> ・すべての2次医療圏域において拠点病院を整備 ・「必須」指定要件を具備していること ・2次医療圏域において複数の医療機関を推薦する場合は、拠点病院間で機能的な役割を分担でき、かつ、その機能が全県的な役割を持つこと <p>の3点を明記。</p>
	○ 全体像及び役割分担(推薦意見書6～7ページに記載済) <ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院の地理的分布と全県的な特徴を有する病院を地図上に明記。
	○ 連携方策 <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県がん診療連携協議会による地域連携クリティカルパスの整備や拠点病院間の連携強化 ・がん診療連携拠点病院等と県立粒子線医療センターの間の紹介システム・経過観察システムを確立

(2) 兵庫県がん対策推進計画(案)におけるがん診療連携拠点病院の役割

項目	回答
整備方針の決定過程(例えば、①協議会における検討など有識者・患者団体等を含む検討の有無 ②現地調査や病院関係者からのヒアリングの有無 ③国の整備方針を上回る選定基準の有無 ④当該整備方針の次の見直し時期)を簡潔に記載すること	① 協議会における検討など有識者・患者団体等を含む検討の有無(推薦意見書2ページに記載済) <ul style="list-style-type: none"> ・「「ひょうご対がん戦略会議」(有識者、関係団体、がん患者団体等で構成)の議論、空白圏域を解消すべきといった県議会やがん患者会からの意見を踏まえ」と明記。 ・(補足説明)11月21日に開催した「がん患者会団体等連絡会」(県内のがん患者らでつくる12団体の集まり)に対する計画案の説明会においても、本県拠点病院の整備方針に関する賛同を得ている。
	② 現地調査や病院関係者からのヒアリングの有無(推薦意見書4～5ページに記載済) <ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院の空白圏域に関して、平成16年に本県が実施した医療需給調査結果を明記。「北播磨」「丹波」圏域で約70%の県民が同圏域でがん治療を受けている ・また、今回の推薦にあたり、該当病院に綿密なヒアリングを実施した。
	③ 国の整備方針を上回る選定基準の有無 <ul style="list-style-type: none"> ・集学的治療の推進や、手術療法と比較して不足している放射線治療医の育成等を図る観点から、放射線治療を実施している病院を推薦。
	④ 当該整備方針の次の見直し時期 <ul style="list-style-type: none"> ・次回の更新時期までに見直しを行う予定。

項目	回答		
	事項	現状	目標
がん診療連携拠点病院の協力を得て実施しようと考えている「事項」を記載し、事項ごとに現状、目標を記載すること	5年以内に5大がんに関する地域連携クリティカルパスを整備する。	0拠点病院	13拠点病院
	がん診療連携拠点病院と県立粒子線医療センターの間の紹介システム・経過観察システムの確立を図る。	1拠点病院	13拠点病院
	集学的治療を推進するため、すべてのがん診療連携拠点病院に学会等が認定する専門医を複数配置する。(日本放射線腫瘍学会認定医、日本臨床腫瘍学会薬物療法専門医、又は日本がん治療認定機構認定医のうち2名以上)	3拠点病院	13拠点病院
	全ての拠点病院において、5年以内に、各圏域でがん診療に携わる医師に対する研修会を開催する。(厚生労働省から提示予定のある緩和ケア研修プログラムに準じた2日間コース 40人×年6回×10圏域×5年間)	0拠点病院	13拠点病院
	がん診療連携拠点病院の緩和ケアチームによる地域の医療機関に対する出張指導を実施する。	0拠点病院	13拠点病院
	在宅においても適切な緩和ケアを受けることができるよう、専門的な緩和ケアを提供できる外来をがん診療連携拠点病院に設置していく。	3拠点病院	13拠点病院
	先端医療センターなどと兵庫県立がんセンターをはじめとするがん診療連携拠点病院が連携して、高度医療ネットワークの形成を図る。	1拠点病院	13拠点病院
	拠点病院毎にセカンドオピニオンに対応できるがん腫を整理して、相談支援センターで共有する。	0拠点病院	13拠点病院
	相談支援センターの運営に関する情報交換や成功事例の共有などを通じて、がん患者や家族の立場に立った相談対応を図る。	0拠点病院	13拠点病院
	兵庫県がん診療連携協議会主(共)催で県民向けの公開セミナー等を開催し、がん患者や家族等に最新のがん情報の提供を行う。	0回	年3回程度
県内の院内がん登録データの分析・評価を行う。	1拠点病院	13拠点病院	

放射線治療・化学療法治療及び日本がん治療認定医機構における専門医の配置状況(参考資料①)

【放射線治療専門医の配置状況】(2007年4月現在)

	県立がんセンター	神戸大学医学部附属病院	神戸市立医療センター中央市民病院	関西労災病院	近畿中央病院	姫路赤十字病院	国立姫路医療センター	赤穂市民病院	公立豊岡病院	県立淡路病院
日本放射線腫瘍学会認定医	4	4	1	1	0	0	2	1	0	1

拠点病院以外の病院の配置状況

西神戸医療センター 1
 県立粒子線医療センター 2
 兵庫県予防医学協会健診センター 1
 県立西宮病院 1
 兵庫医科大学病院 3
 先端医療センター 1
 神鋼病院 1
 鐘紡記念病院 1
 市立西脇病院 1
 市立伊丹病院 1

(東京都77、大阪府47、北海道33、神奈川県32、千葉県30に次いで兵庫県は第6位) 県内合計 27名(約5%)
 全国合計 542名

【化学療法専門医の配置状況】(2007年4月現在)

	県立がんセンター	神戸大学医学部附属病院	神戸市立医療センター中央市民病院	関西労災病院	近畿中央病院	姫路赤十字病院	国立姫路医療センター	赤穂市民病院	公立豊岡病院	県立淡路病院
日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0

拠点病院以外の病院の配置状況

なし

(東京都17、大阪府12、愛知県11、福岡県11、岐阜県9、岡山県9、宮城県7、神奈川県5、広島県5に次いで兵庫県は10位) 県内合計 4名(3.2%)
 全国合計 126名

【日本がん治療認定医機構関連】(2007年7月現在)

	県立がんセンター	神戸大学医学部附属病院	神戸市立医療センター中央市民病院	関西労災病院	近畿中央病院	姫路赤十字病院	国立姫路医療センター	赤穂市民病院	公立豊岡病院	県立淡路病院
日本がん治療認定医機構暫定教育医	12	14	5	5	0	5	2	0	0	4

拠点病院以外の病院の配置状況

西神戸医療センター 5
 国立病院機構神戸医療センター 1
 隠病院 3
 先端医療センター 1
 県立こども病院 2
 神鋼病院 1
 社会保険神戸中央病院 1
 兵庫医科大学病院 4
 県立西宮病院 4
 合志病院 1
 西宮協立脳神経外科病院 1
 尼崎医療生協病院 1
 宝塚市立病院 2
 宝塚第一病院 1
 県立加古川病院 1
 姫路中央病院 1
 新日鐵広畑病院 3
 県内合計 118名(6.1%)
 全国合計 1,937名

兵庫県がん診療連携協議会の活動状況(参考資料②)

日 時	活 動 内 容(今後の予定も含む)
平成19年2月28日	協議会設立に向けた意見交換(拠点病院の院長と兵庫県)
平成19年5月19日	第1回「協議会」開催
平成19年6月7日	第1回「幹事会」開催
平成19年6月30日	第1回「研修・教育」部会開催
平成19年7月7日	第1回「情報・連携」部会開催 第1回「緩和医療」部会開催
平成19年7月26日	第1回「がん登録」部会開催
平成19年9月29日	第2回「協議会」開催 外来化学療法セミナー開催(「研修・教育」部会主催) 第2回「研修・教育」部会開催
平成19年10月13日	がん登録推進セミナー開催(「がん登録」部会主催)
平成19年10月27日	相談支援事業推進セミナー開催(「情報・連携」部会主催) 第2回「情報・連携」部会開催
平成19年11月10日	緩和ケア推進セミナー開催(「緩和医療」部会主催) 第2回「緩和医療」部会開催
平成20年2月16日	第2回「緩和ケア推進セミナー」開催予定(「緩和医療部会」主催)
平成20年3月1日	放射線治療に関するセミナー開催予定(「研修・教育」部会主催)
平成20年3月13日	市民向けがん情報セミナー開催予定(「情報・連携」部会主催)

【協議会委員(議長:県立がんセンター院長 幹事長:県立がんセンター参事)】

- ・がん診療連携拠点病院長
- ・協力病院長(兵庫医科大学病院、市立西脇病院、県立柏原病院)
- ・兵庫県医師会長
- ・兵庫県歯科医師会長
- ・兵庫県薬剤師会長
- ・兵庫県看護協会会長
- ・兵庫県放射線技師会長
- ・兵庫県健康生活部長
- ・患者団体代表
- ・県立がんセンターの参事

【協議会部会の担当業務】

部 会 名	担 当 業 務
「研修・教育」部会	・抗がん剤治療等の専門医療人の養成 ・研修計画 ・診療支援医師の派遣調整
「情報・連携」部会	・情報提供 ・がん医療に関する情報交換 ・クリティカルパスの整備
「がん登録」部会	・統計 ・県内のがん登録データ分析・評価
「緩和医療」部会	・緩和医療、ホスピス等との連携体制

【参 考】

厚生労働省「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」

○都道府県がん診療連携拠点病院は、都道府県の中心的ながん診療機能を担い、下記の機能を有すること。

都道府県がん診療連携協議会を設置し、当該協議会は下記の事項を行う。

- ①地域におけるがん診療連携体制等ががん医療に関する情報交換を行うこと。
- ②都道府県内の院内がん登録データの分析、評価等を行うこと。
- ③都道府県レベルの研修計画、診療支援医師の派遣調整を行うこと。
- ④地域連携クリティカルパスの整備を行うことが望ましい。

兵庫県がん診療連携協議会 幹事・部会員等名簿（平成19年7月26日現在 ※＝副部会長）

病院名	幹事	(A) 研修・教育部会 部会長 小林 研二	(B) 情報・連携部会 部会長 高塚 雄一	(C) がん登録部会 部会長 鷺見 宏	(D) 緩和医療部会 部会長 湯浅 志郎
近畿中央病院	小林 研二 (A) (副院長)	小林 研二 (副院長)	中西 和代 (地域医療係長)	井上 典子 (診療情報管理係主任)	沖 由江 (主任看護師)
関西労災病院	高塚 雄一 (B) (副院長)	天野 勝 (※) (副院長)	和田 安彦 (医療情報部長)	和田 安彦 (※) (医療情報部長)	辻本 浩 (心療内科副部長)
神戸大学医学部 附属病院	杉村 和朗 (放射線科教授)	南 博信 (※) (腫瘍内科特命教授)	丹生 健一 (耳鼻咽喉・頭頸部外科教授)	藤澤 正人 (泌尿器科教授)	西村 善博 (呼吸器内科准教授)
神戸市立医療センター 中央市民病院	石原 享介 (副院長)	細谷 亮 (外科部長)	稲 恒子 (※) (地域医療推進課長)	高橋 豊 (呼吸器外科部長)	岩田 奈美 (がん疼痛看護認定看護師)
姫路赤十字病院	湯浅 志郎 (D) (副院長)	佐藤 四三 (第一外科部長)	大霜 章 (企画情報課長)	山崎 よし子 (医事課長)	北山 さゆり (看護係長)
姫路医療センター	大歳 雅洋 (副院長)	丸田 力 (放射線科医長)	川口 真嗣 (経営企画室長)	出口 直孝 (算定・病歴係長)	柴田 知里 (※) (副看護師長)
赤穂市民病院	寛光 章 (副院長)	小野 成樹 (診療部長, 消化器科部長)	中島 卓也 (医事課医事サービス係長)	藤木 靖成 (医療課診療情報管理士)	八杉 まゆみ (主任看護師)
県立淡路病院	栗栖 茂 (部長 (地域医療連携担当))	国東 ゆかり (薬剤部次長)	梅木 雅彦 (外科部長)	関 誠 (総務部次長兼医事課長)	中野 ちはる (看護師)
公立豊岡病院	坪野 充彦 (化学療法科部長)	坪野 充彦 (化学療法科部長)	石岡 武男 (管理部次長)	林 和子 (病歴管理室・主任)	森本 七重 (総看護部長)
兵庫医科大学病院	島 博基 (副院長)	中野 孝司 (内科 呼吸器・RCU科診療部長 (胸部腫瘍科診療部長・がんセンター長兼任))	佐藤 浩治 (病院事務局地域医療課課長)	秋山 治 (病院事務局病歴課課長)	福永 智栄 (ペインクリニック部助教)
市立西脇病院	岩井 正秀 (副院長)	木村 充 (医療技術局長)	徳岡 成美 (地域連携室室長補佐)	水杉 達昭 (医事課長)	戸島 和彦 (診療局長)
県立柏原病院	藤原 澄夫 (検査・放射線部長兼部長 (医療安全担当)・診療部外科部長)	鹿島 孝子 (薬剤部次長)	山口 美晴 (看護部次長)	村上 久直 (医事課長)	古川 真弓 (看護師)
兵庫県健康生活部	鷺見 宏 (C) (疾病対策課長)	渡邊 克幸 (疾病対策課主査)	渡邊 克幸 (※) (疾病対策課主査)	小林 誠 (※) (財)兵庫県健康財団	渡邊 克幸 (疾病対策課主査)
県立がんセンター	足立 秀治 (参事、医療情報部長)	西村 隆一郎 (副院長、研究部長、学術委員会委員長)	黒木 みちる (看護部次長)	村田 洋三 (地域医療連携部長)	池垣 淳一 (※) (緩和医療担当部長)

「外来化学療法セミナー」の開催

1 目 的

国の「がん対策推進基本計画」においては、重点的に取り組むべき課題の一つとして「放射線療法及び化学療法の推進」が挙げられ、その成果や達成度を計るために、「すべてのがん診療連携拠点病院において、5年以内に、放射線療法及び外来化学療法を実施できる体制整備」を「個別目標」としています。

そこで、本協議会は、このたび、「外来化学療法」に関する最新事例の紹介や現状と課題の分析、上手な運営方法などの発表・意見交換を通じて、同療法部門の充実強化に資することを目的としたセミナーを開催することとしました。

化学療法に従事する関係者の方々のご参加をお待ちしています。

2 日 時

平成 19 年 9 月 29 日(土) 午後2時30分～5時

3 場 所

兵庫県私学会館(地図は裏面参照) 4F 大ホール
〒650-0012 神戸市中央区北長狭通 4 丁目 3-13
TEL (078)331-6623 FAX (078)321-5968

4 プログラム

時間	項 目	演 題・発 表 者
1時間 (質疑 応答 を含 む)	基 調 講 演 座長:小林 研二 (近畿中央病院副院長)	演題:「腫瘍内科と外来化学療法」 演者:南 博信 (神戸大学医学部腫瘍内科特命教授)
1時間 30分	パネルディスカッション 座長:南 博信 (神戸大学医学部教授) 座長:細谷 亮 (神戸市立医療センター中 央市民病院外科部長)	「各拠点病院における現状と課題」 ① 神戸市立医療センター中央市民病院の事例 ② 県立淡路病院の事例 ③ 県立がんセンターの事例 ④ 他の拠点病院の事例 ⑤ 全体討論

(※)兵庫県がん診療連携協議会：国のがん診療連携拠点病院の整備指針に基づき、都道府県型がん診療連携拠点病院である兵庫県立がんセンターに設置した協議会です。本県のがん診療連携拠点病院、県医師会等の関係機関、患者会代表で構成しています。

「がん登録推進セミナー」の開催

1 目 的

国の「がん対策推進基本計画」において、重点的に取り組むべき課題の一つとして「がん登録の推進」が挙げられ、がん登録に関する各取組例を情報提供するなどして、がん登録を着実に実施していくことが求められています。

そこで、本協議会は、このたび、地域がん登録及び院内がん登録の専門家の先生をお招きして、がん登録の役割や院内がん登録の推進に関する留意事項等を学ぶことを通じて、本県のがん登録の推進に資することを目的としたセミナーを開催することとしました。

がん診療を行っている医療機関の関係者の方々のご参加をお待ちしています。

2 日 時

平成 19 年 10 月 13 日(土) 午後2時から4時

3 場 所

兵庫県医師会館 大会議室(地図は裏面参照)

〒651-8555 神戸市中央区磯上通 6-1-11

TEL (078)231-4114 FAX (078)231-8111

4 プログラム

時間	項 目	発 表 者 等
50 分 (質疑 応答 を含 む)	基 調 講 演 1 座長:鷺見 宏 (兵庫県健康生活部 健康局疾病対策課長)	演題:「地域がん登録の役割と機能」 演者:岡本 直幸氏 (神奈川県立がんセンター臨床研究所 がん予防・医療情報研究部門長) (地域がん登録全国協議会理事長)
50 分 (質疑 応答 を含 む)	基 調 講 演 2 座長:和田 安彦 (関西労災病院 医療情報部長)	演題:「院内がん登録の推進に関する留意事項」 演者:猿木 信裕氏 (群馬県立がんセンター手術部長・がん登録室長)
20 分	意見交換・討論 司会進行:小林 誠 (兵庫県健康財団 がん登録課長)	演者と会場参加者による意見交換・討論

(※)兵庫県がん診療連携協議会：国のがん診療連携拠点病院の整備指針に基づき、都道府県型がん診療連携拠点病院である兵庫県立がんセンターに設置した協議会です。本県のがん診療連携拠点病院、県医師会等の関係機関、患者会代表で構成しています。

相談支援に関する医療従事者向けセミナー

- 1 日 時 平成 19 年 10 月 27 日 (土) 14:30~17:00
- 2 場 所 兵庫県私学会館 4F 大ホール (別添地図をご参照願います)
〒650-0012 神戸市中央区北長狭通 4-3-13
- 3 プログラム

時間	項目	発表者等
60分 (質疑 応答を 含む)	【第1部】 基調講演 座長:高塚 雄一 (関西労災病院副院長)	演題:「がん診療連携拠点病院の役割と機能」 (緩和ケア、医療連携を中心に) 演者:谷水 正人氏 (独立行政法人国立病院機構四国がんセンター 外来部長) 演題:「相談支援センターの役割と機能」 (具体的な事例を中心に) 演者:菊内 由貴氏 (独立行政法人国立病院機構四国がんセンター がん看護専門看護師)
30分	【第2部】 現状報告 (1病院 10分×3病院) 司会:渡邊 克幸 (兵庫県健康生活部健康局 疾病対策課主査)	○ 総合病院の現状1(近畿中央病院) 古川 妙子(看護師長) ○ 総合病院の現状2(赤穂市民病院) 富田 幸典(メディカルソーシャルワーカー) ○ がん専門病院の現状(兵庫県立がんセンター) 橋口 周子(がん看護学修士課程修了者)
60分	【第3部】 意見交換・討論 司会:梅木 雅彦 (兵庫県立淡路病院 外科部長)	○ 演者と会場参加者による意見交換・討論

「緩和ケア推進」セミナー

1. 日時 平成19年11月10日(土)

14:30-17:30

2. 場所 神戸大学医学部 6F大講義室

3. 次第

(1) 基調講演 14:30-15:20

「緩和ケアチームの役割と地域連携の取組」

林 昇甫 先生(市立豊中病院)

座長 湯浅 志郎 緩和医療部会会長(姫路赤十字病院)

(2) 一般講演 15:20-17:10

「現状・問題点と解決案」

司会・進行 池垣 淳一 緩和医療部会副部会長(県立がんセンター)

柴田 知里 緩和医療部会副部会長(姫路医療センター)

① 緩和ケアチームに必要なシステムと活動
和田 康雄先生(姫路医療センター)

② 緩和ケアチームにおける身体的支援
- 痛み -
仁熊 敬枝先生(姫路赤十字病院)

③ 緩和ケアチームにおける身体的支援
- その他の身体症状 -
井沢 知子先生(県立がんセンター)

④ 緩和ケアチームにおける精神的支援
辻本 浩先生(関西労災病院)

⑤ 緩和ケアチームにおける社会的支援
林 敏美先生(神戸中央市民病院)

(3) 全体質疑 17:10-17:30

※ 兵庫県がん診療連携協議会: 国のがん診療連携拠点病院の整備指針に基づき、本県のがん診療連携拠点病院、県医師会等の関係機関、患者会代表で構成している。